

長柄小だより

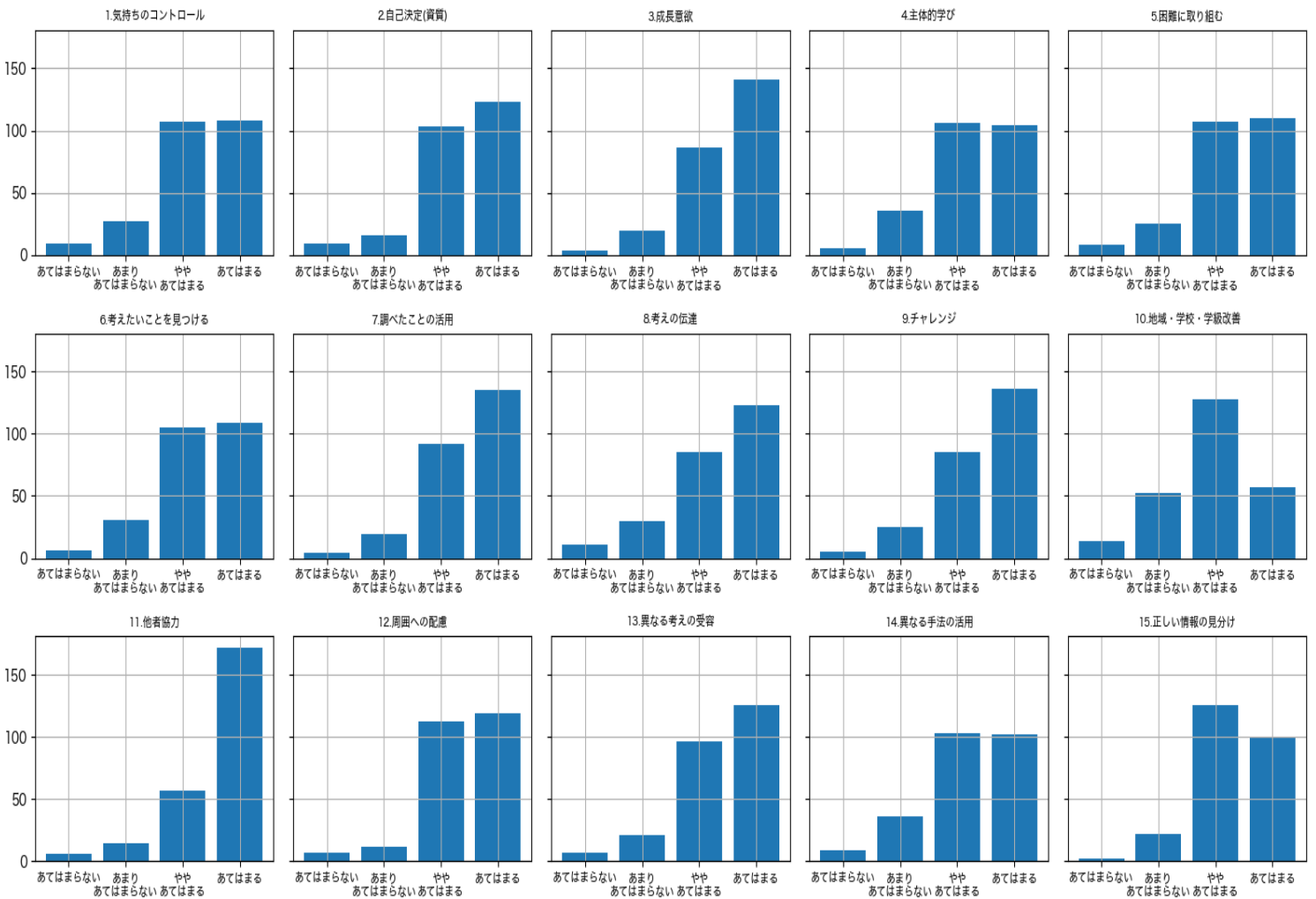
考えて行動できる子
～自律・創造
しなやかな心～

令和7年度 特別号
2026年 2月 25日
葉山町立長柄小学校
校長 長谷川 泰子
TEL 046-875-6860

学校評価アンケートの結果

12月に行った学校評価アンケートについての結果をご報告するとともに、今後の学校運営上の課題について記載させていただきます。以下のデータは、学芸大学でデータ化いただきました。

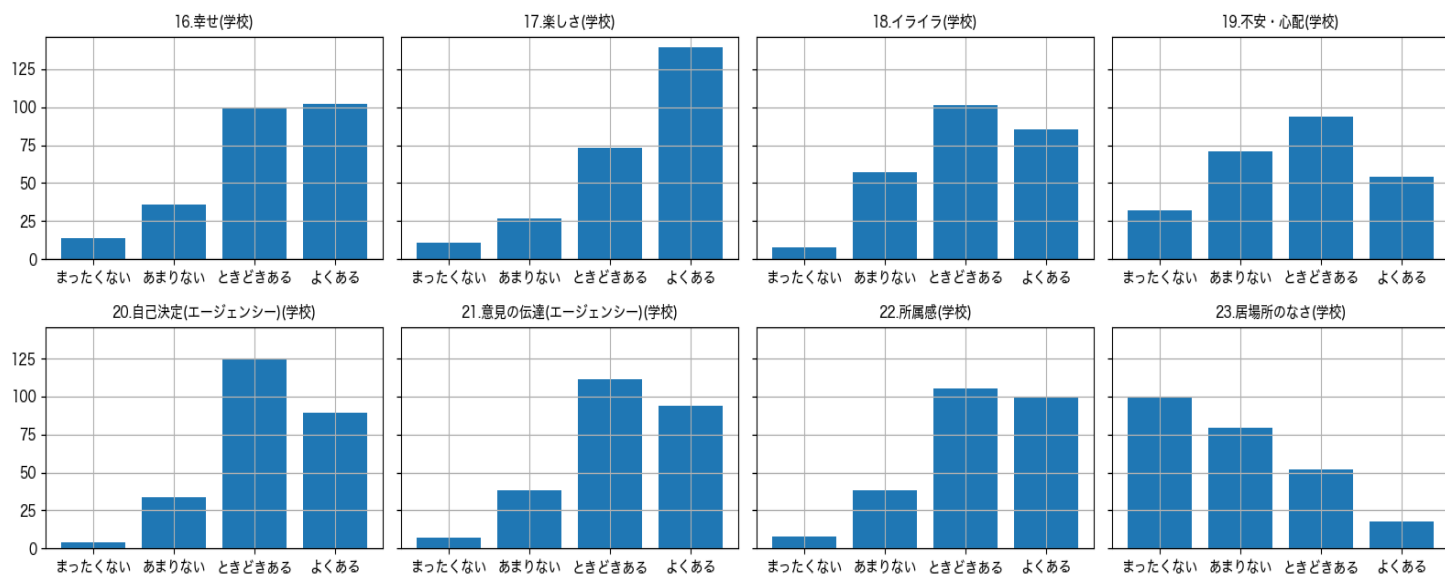
長柄小学校：児童用：非認知領域



児童の15の身に着けたい力についてのアンケート結果です。

全体的に高く、特に「3.成長意欲」「11.他者協力」が高い傾向です。「10.地域・学校・学級改善」が低い傾向。全体的な傾向は同じですが、評価は児童>保護者>教職員と、教職員が一番厳しめに結果が出ました。児童よりも、保護者・教職員の視点の「15.正しい情報の見分け」の方が低い結果でした。

長柄小学校：児童用：ウェルビーイング・エージェンシー（学校）



上記は児童のウェルビーイングの結果です。学校ではポジティブ感情もやや高いがネガティブ感情も低くはないことが分かります。児童の視点と教員の視点では、ポジティブ感情はそこまで変わらず、ネガティブ感情は児童の方が高いです。(特にイライラ)ヒストグラム上、学校で「幸せ」が「まったくない」という生徒が少なからずいることも懸念です。家庭ではポジティブ感情が学校より高いが、ネガティブ感情はやや低めです。

児童は自己決定や協働に関して高い自己評価をしており、「自分で考えて決める」という項目は全体的に高い傾向にあります。これは学校目標の浸透や、自分がやりたいことを進められる授業・生活づくりの成果と捉えています。協働・所属感「友だちと協力して取り組む」評価が高く、学級経営や人間関係づくりの成果が出ています。また、「学校の一員である」という所属感は高学年になるにつれて高まる傾向にあります。

評価が分かれる・分析が必要な項目としては、「粘り強さ」や「楽しさ」については、児童の自己評価は高いものの、保護者・教員の評価は低く、認識にギャップを感じます。困難に直面した際に「他の方法を考える」ことが苦手で、ジレンマを抱えている可能性や、やりたくないことを「やらない」と決めることを主体性と混同していないか、指導上の見極めが必要と考えます。

「地域や学校を良くするために何をすべきか考える」項目が、児童・保護者・教員ともに低調。保護者の「正しい情報を見分けることができている」という評価が低くなっています。

「幸せ」よりも「楽しい」と感じる児童が多い傾向があり、この「楽しさ」が「独りよがりな楽しさ」になっていないか懸念し、他者意識を持たせる必要性も視野に入れていきたいと思えます。感情のコントロールや、社会・情報への関わり方については「何かにイライラする」数値が全体的に高く、アンダーコントロールが苦手な傾向が見られます。しかし、成長の過程では適度なストレスは必要であり、全くイライラしない環境が果たして教育現場かと考えるとこの数値を低くしようと目指すだけでなく、全体的な捉えで教育活動を進めていく必要があると、学芸大学の先生からもご意見をいただきました。

高学年において「居場所がない」と感じる児童が散見されます。「誰一人取り残さない」ことを常に意識し、教職員が情報共有しながら、子どもたちの支援をより充実させていく必要性を感じます。

家庭での幸せを感じる数値が非常に高く、各家庭で愛され、認められて育っている長柄小の児童の多さをより強く感じました。今回の結果を踏まえ、子どもたちの成長に寄与できるよう、今後の学校経営に活かしてまいりたいと思えます。